

「生き方を考える教育の実践」～自律し自立する生徒の育成～

鳥取市立湖東中学校

スーパーバイザー：日本体育大学 角屋 重樹 教授

1 はじめに

「生き方を考える学習活動の実践」～自律し自立する生徒の育成～

本校は、学校教育目標「夢と志を持ち、その実現へ向け見通しを持って 今を充実して生きる生徒の育成」のもと、「自分で考え、自分で判断し、自分が行動する」生徒の育成を目指している。「生徒の学びに向う力を高めることで、学校教育目標の実現にせまることができる」という研究仮説のもと、教科の授業力向上を目的とし、授業づくりの研究を行った。今年度は「主体的な学び」をテーマに「自らの学習活動を振り返る」ことに重点を置く。生徒が自分の学びを振り返り変容を実感することは、自分の学びに価値づけが行われ、学びに向う力を育成することにつながると思う。各教科共通の取り組みとして研究を進めることで、主体性を高めるための授業力向上を図っていく。

2 研究のねらい

- (1) 授業づくりのポイント（主発問・協働場面・振り返り）を意識した実践を行うことで、本校の目指す生徒像を実現する。
- (2) 各教科で共通の実践・研究の柱（主体的な学びにつながる振り返り）とすることで、全教職員の授業力の向上を図る。

3 研究内容

(1) 研究の概要

- 7月 5日 第1回授業研究会（社会）SV
- 8月23日 校内研究会  
PDC Aチェック、道徳、教科、Q-U分析
- 9月26日 エキスパート公開授業（技・家）
- 10月25日 講師研公開授業（社会）
- 11月29日 第2回授業研究会（理科）SV
- 11月17日 県保体研究会公開授業（保健体育）
- 11月27日 東部教育局訪問
- 1月26日 中堅教諭等資質向上研修（国語）
- 1月29日 フォローアップ授業研究会（国語）
- 2月 2日 講師研公開授業（数学）

(2) 取り組みの具体的な内容

①取り組みの計画と共通理解

- ・研究授業及び公開授業は、初任研、経年研などの授業研究会と兼ねる。教科のバランスを考慮する。
- ・研究会以外の参観日又は教育委員会訪問など、研究の成果を還元する機会を全員が持つ。
- ・教科の研究会には、担当教科外の教員も参加する。

○研究授業のテーマ

「主体的な学びにつながる振り返りにするために」

～自らを振り返って 次の学ぶ意欲に つなげるために～

○授業づくりのポイント

- ・主発問は、思考を深め本時のねらいにせまるものになっていたか。
- ・課題の解決に向けて、生徒が協働する場面を設定しているか。
- ・本時のめあて、振り返りを設定した授業展開となっているか。
- ・学ぶ意欲を高める振り返りとなっているか。

②第1回授業研究会 7月 5日 (指導案 資料<sup>1</sup>) 学習カルテ 資料<sup>2</sup>)

○2年社会科 (地理的分野) 単元名「自然環境の特色」



○アドバイザーからの指導助言

主体的に学ぶとは

- ・「主発問」を生徒自らが自然と発想できるような学習にすること。

振り返りと主体性との関係

- ・単元の構成の仕方 学ぶことに文脈 (ストーリー) を作る。1時間目に習ったことと2時間目に習ったこと、つながりを作る。
- ・問いの構成の仕方 学習に文脈 (ストーリー) を作って、自ら問いをうまれさせるようにする。
- ・教科や単元によって、文脈 (ストーリー) ができない内容のものがある。  
そのときには教師から問いを与える。ただし、教師が問いを与えるときの条件がある。
- ・リアリティがあり、身近なもの。
- ・既習が使えるもの。

問いをうまれさせるための振り返り

- ・文脈 (ストーリー) を押えて振り返りをさせる。振り返りは、自ら問いをうまれさせるために行う。

振り返りの役割

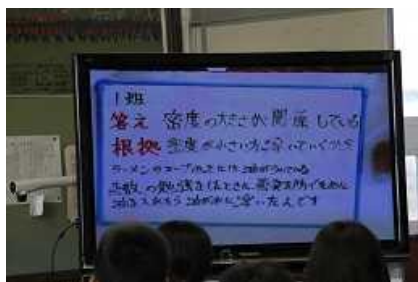
- ・自ら問いをうまれさせるために。次の問いがうまれるために。
  - ・今日、何を学んで次に何を学ぶか振り返りをさせる。
- ※「何のために、何が必要か」という振り返りの習慣をつけさせることで、判断力は育まれる。

○参加者の感想

- ・主体的な学びということが今までは曖昧であったが、「自らの問いがうまれること」または、「自分が追求したいと思える問い」であることが分かり、主体的な学びになるような問いかけと振り返りを、授業の中で活用できるようにしていきたいと思った。

③第2回授業研究会 11月29日 (指導案 資料<sup>3</sup>)

○1年理科 単元名 「身のまわりの物質」



## 思考の術（すべ）を活用した授業展開

### ○比較

- ・2つ以上の事柄を提示し、比べて類似点や相違点を見出し、問題や特徴に気づかせる「すべ」である。

### ○関係づけ

- ・2つ以上のものを結びつけ、予想したり見通したりすることで、思考を深める「すべ」である。
- ※「比較」と「関係づけ」で思考を深める授業になる。

### ○既習

- ・これまでの学習内容や経験をもとにすること。「比較」の基準や「関係づけ」の対象になる。
- ・それまでの学習内容や生活経験をもとにすること。学んだことを使って現象を説明する。解決していくこと。
- ・「既習」は、様々な場面で生かせる。
- ・「既習」を用いて問題を解決できる喜びを経験させる。
- ・「既習」を使って日常生活に拡大していく。
- ・子どもが自分で物をわかっていくためには、『既習を最大限』使う。

### 振り返りで

- ・「振り返り」で得られる達成感。
- ・自分で何とかできるという自信。
- ・自ら学ぶ子へつながる。

※学びに向かう力とは、学習の目的と、それを達成する術（すべ）をもっているということ。

つまり、学んだことが次にいかせるような単元計画。学びの文脈（ストーリー）を描くことが大切である。

### ○参加者の感想

- ・1時間の授業や単元の中で、授業の目標に照らして自分がどこまでできたのかという達成度を振り返らせることが重要である。その上で、次の目標を設定させ、そのために何をすべきか考えることが、次の学習意欲につながる。

## 4 研究のまとめ

### (1) 成果

- ・授業アンケート（全校生徒対象12月実施）「授業には、自分の考えを伝えたり、説明したりする場面があるか」「授業の最後には、学習内容を振り返る場面があるか」の問いに対して平成28年度と平成29年度で肯定的な評価の割合を比較したところ、改善が見られた。86.0%→91.3%（+5.3%）  
86.9%→91.3%（+4.4%）

- ・湖東中校区共通アンケート（全校生徒対象 11月実施）における、自律し自立する姿勢に関連した項目を、平成28年度と平成29年度で肯定的な評価の割合を比較したところ、

「将来の夢や目標を持っている」74.0%→79.5%（+5.5%）

「授業にすすんで取り組んでいる」90.5%→93.1%（+2.6%）

「自分にはよいところがある」69.9%→75.6%（+5.7%）

となっており、この取り組みにより、生徒の自律し自立する姿勢が高まってきていることが窺える。生徒の「学びの手応え」を次の「学びに向かう力」につなげられるよう、今後も「振り返りの充実」を図り、授業改善を進めていきたい。

## (2) 課題

### 単元の構成を工夫

・学習に文脈（ストーリー）を作って、学んだことが次にいかせるような単元構想の工夫が各教科で今後必要である。

### 次につながる振り返り

・既習を使って「自分で分かった、できた」の学びの手応えの実感を振り返りの中で再確認させていきたい。

・「振り返り」では、自ら次の問い（疑問・学びたいこと・できるようになりたいこと）をうまれさせるようにし、次に何を学びたいのか、何を学ぶのかそのために何が必要なのか想起させたい。

### 話型の活用

・国語科の「聞く・話す」学習をベースにして、話し合い活動の基本的なルール作りを行いたい。その際、『表現の術(すべ)』である「話型」を活用したい。「～と比べて」「～とつなげて考えると」などの思考を整理する「話型」や、話し合いの話型などを、あらゆる場面で活用できる術を習得させることが今後の課題である。